

桂枝加苓朮附湯

(方機)

組成 桂枝4.0 芍薬4.0 大棗4.0 乾生姜1.0 甘草2.0 朮4.0 茯苓4.0 加工附子0.5~1

主治 陽気不通、寒湿痺

効能 通陽散寒祛湿、止痛

プロフィール

吉益東洞が『傷寒論』の桂枝加附子湯に朮を加えて桂枝加朮附湯と名づけ、更に茯苓を加えて、その適応症を「湿家、眼目明らかならざる者、或は耳聾、或は肉瞶筋惕する者、桂枝加苓朮附湯之を主る」(『方機』)と述べたものが、すなわち本方である。東洞の常用処方であり、後に尾台榕堂もこの処方を多用した。湯本求真は桂枝加朮附湯ではなくこの桂枝加苓朮附湯のみを用いるとし(『皇漢医学』)、その中には苓桂朮甘湯、真武湯の方意をも含蓄すると述べている。浅田宗伯が本方を用いてフランス公使レオン・ロッシュを治療した有名な逸話がある(『橘窓書影』)。医療用漢方製剤には桂枝加朮附湯と桂枝加苓朮附湯がともに存在し、同じように使用されている。

方解

本方は、基本骨格は桂枝湯であるが、基本的には寒湿痺を治療する処方である。桂枝湯は営衛を調和して風寒邪の侵襲を防御し、同時に配剤された附子の散寒温通の作用を加えて陽気と血を温通させ、寒が主たる原因で生じた疼痛や痺れを改善する。蒼朮は祛風湿し、茯苓は利水によって寒湿の邪を外泄する。芍薬は関節痛、筋肉痛に対して緩急止痛に働き、甘草、大棗、生姜は中焦を鼓舞する。生姜には附子の散寒作用を増強する働きもある。

四診上の特徴

本方に関する四診上の特徴を述べた記載は少ない。長谷川らはその使用目標について、「本方は、比較的体力が低下し、四肢冷感を訴える例の、四肢関節の疼痛・腫脹、筋肉痛、麻痺、しびれ感などを目標に用いる。腹部は、一般に腹力が弱く、時に心窩部振水音、腹直筋の緊張を認める。一般に、関節痛・筋肉痛(寒冷により増悪)のほか、微熱、盗汗、手足のこわばり、浮腫などを伴う」と述べている¹⁾。

尾台榕堂は「心悸、目眩、身瞶動者」には、桂枝加朮附湯に茯苓を加味して桂枝加苓朮附湯として用いるように指示している²⁾。これは、苓桂朮甘湯もしくは真武湯の方意を反映させたもので、眩暈、立ちくらみ、労作時の動悸などを伴う場合のあることを示唆している。

臨床応用

適応疾患は、関節痛、神経痛、筋肉痛など疼痛性疾患と、

麻痺やしびれを呈する疾患である。関節リウマチ、肋間神経痛、上腕神経痛、三叉神経痛、肩関節周囲炎、諸種の関節痛ならびに筋肉痛、腰痛症、変形性膝関節症、脳卒中後遺症などに用いられる。花輪は、交通事故外傷、むちうち症、リウマチ、神経痛などで「冷えると古傷が疼く」ものに有用で、「胃腸にやさしい鎮痛剤」と記載している³⁾。しかし、初期でも病態が合えば使用可能である。

関節リウマチ(RA)

桂枝加朮附湯、桂枝加苓朮附湯は、RAの代表的治療薬の一つとして用いられてきた。これまでの報告では、主にStage I・IIの比較的関節変化の少ない患者が対象であり、関節の腫脹、熱感が軽い場合に適応となるとされている。

谷崎らは、classical又はdefinite RAと診断されプロトコルを満たした36例に桂枝加朮附湯を投与し、4、8、12週ごとに臨床症状などを評価した結果、12週投与した27例中14例(51.9%)に明らかな臨床効果が認められたと報告している。投与対象は関節の腫脹・疼痛のみられる比較的活動性の高い症例であった⁴⁾。

Imadayaらは95例のRAに対し漢方治療を行い、ランスパリー指数により判定を行ったところ、68%の有効率であった。有効処方方は桂芍知母湯、桂枝加苓朮附湯、桂枝二越婢一湯の順で有効であり、全体の94%を占めていた。特に桂枝加苓朮附湯は発病初期の活動性の高い症例に有効であったと報告している⁵⁾。

同様に古田らは、活動性の高い36例のRAに対し随証治療を行い、14例で桂枝加苓朮附湯を使用した。うち8例が有効であり、単独投与は6/8例で有効であった⁶⁾。また松多は52例のRA患者で、桂枝加苓朮附湯または桂枝加朮附湯のみで2ヵ月経過を診た患者に対し、各種DMARDを追加して治療効果を検討したところ、金製剤との併用が効果的であったと報告している⁷⁾。

安田らもclassical又はdefinite RAと診断されて治療中の患者に対し、「手足の冷え」を主要項目とし、「手足の痺れ」、「四肢の腫脹」、「自然発汗」、「尿量減少」がみられた症例に桂枝加苓朮附湯を投与した。その結果、全般改善度でやや改善以上の効果がみられた割合は7/13例(53.8%)であり、特に「手足の冷え」がみられた場合に有効であったと述べている⁸⁾。

変形性膝関節症

高岸は27名に桂枝加朮附湯を用いた結果、全般改善度は著明改善1例、中等度改善11例、軽度改善10例で中等度改善以上は44%であったと述べている。患者自身の評価では「良くなった以上」は48.1%、「やや良くなった以上」は81.5%であっ

た。さらに、高齢者になるにしたがい、「改善以上」の比率が上昇したと報告している⁹⁾。

腰下肢痛(骨粗鬆症を含む)

大竹は、腰痛症の治療結果をまとめた報告で、桂枝加朮附湯は変形性腰椎症より骨粗鬆症に伴う痛みにも有効なことが多いと述べている¹⁰⁾。その中で、骨粗鬆症患者では小腹不仁などの腎虚の兆候が少なかったと報告している。さらに、非ステロイド系消炎鎮痛剤(NSAID)との治療効果を比較したところ、投与4週目ではNSAID投与群と桂枝加朮附湯を中心とした漢方治療群で治療効果に差を認めなかったが、12週後では有意に漢方治療群で痛みが軽減していた。さらに、骨量(骨皮質幅・MCI)と骨密度の推移をDIP法とm-BMD法で9ヵ月間追跡したところ、無治療群と比較し有意に増加していた。

さらに、骨粗鬆症治療薬のイブリフラボン、NSAID、桂枝加朮附湯をそれぞれ投与した3群でMCIの変化を9ヵ月間追跡した結果、桂枝加朮附湯とNSAIDでは同様な鎮痛効果を示したがNSAID投与群では骨量が維持されなかった。桂枝加朮附湯ではイブリフラボンと同等な骨量維持効果を認めたため、桂枝加朮附湯は単に疼痛改善のみならず骨代謝に直接影響している可能性が示唆された。また、骨代謝マーカー(Osteocalcin、intact-Osteocalcin、ALPⅢ)の変動があるか否かをDXAでの骨量測定(BMD)と同時にを行った結果、ALPⅢは3ヵ月で有意に低下し、BMDは6ヵ月後には有意に増加した。またいずれの骨代謝マーカーにおいても、初期に明らかに高値で高回転を示した症例においては、3ヵ月後に低下していた。よって、特に高回転型と思われる骨粗鬆症に対し桂枝加朮附湯は骨代謝を抑制したと考えられる。

田北はビタミンD製剤と桂枝加朮附湯を併用することにより、煎じ薬では骨密度を増加させ、エキス剤の場合には低下させないと報告している¹¹⁾。

佐々木らは腰椎変性疾患で疼痛を訴えている20例に桂枝加朮附湯を用いたところ、著効2例、有効9例、やや有効4例、無効5例であったと報告している¹²⁾。

帯状疱疹後神経痛(PHN)

本方は帯状疱疹の急性期よりも、その後に生じるPHNに対して使用される機会が多く、特に胸神経領域に頻用される¹³⁾。菅谷らは、PHNに対する桂枝加朮附湯の効果を検討した。27例の投与群と30例の非投与群に対し、10段階の疼痛スコアで評価した結果、開始時が10として、1ヵ月後で投与群が7.33±1.3、非投与群が7.87±1.1(p<0.05)、2ヵ月後は投与群5.25±2.5、非投与群7.16±1.8(p<0.01)となり、有意に疼痛の軽減がみられた¹⁴⁾。

また、里村らは、体力に乏しく筋肉の緊張が弱く冷え症など虚証タイプで、発症1ヵ月以上経過した48～89歳のPHN患者40名に対し、神経ブロックの補助療法として桂枝加朮附湯

を投与した。その結果、1ヵ月後で有効以上34例(85%)、3ヵ月後は36例(90%)で、胸神経領域に比較し三叉神経第1枝領域では不変の割合が高かったと述べている¹⁵⁾。

白藤は、PHNの部位と有効処方との関係を考察し四肢末梢の寒湿性疼痛を訴える場合に桂枝加朮附湯を用いると効果的であると述べている¹⁶⁾。

三叉神経痛及び顎・顔面痛

堀江らは、虚証を呈する三叉神経痛の患者5例に対しカルバマゼピンと桂枝加朮附湯を併用したところ疼痛の改善を認め、3例ではカルバマゼピンを中止できたと報告している¹⁷⁾。神野らは、虚証あるいは虚実中間証で冷感を有する根管治療後疼痛7例、非定型顔面痛6例、三叉神経痛2例、顎関節症1例の計16例に、桂枝加朮附湯を投与し効果を検討した。その結果、各疾患で著効、有効を合わせた有効率はそれぞれ6/7例、1/6例、1/2例、1/1例で、全体として56.2%であった¹⁸⁾。この他、複合性局所疼痛症候群(カウザルギー)¹⁹⁾や放射線治療後などの疼痛²⁰⁾、上眼窩神経炎などにも有効であったと報告がある。

脳血管障害後遺症

吉益東洞は脳卒中の後遺症(半身麻痺など)に本方をしばしば用いた。尾台榕堂にも著効を示した症例報告がある。大塚は、7ヵ月前に脳出血を発症した半身不随の65歳の男性に対して効果のあった興味深い症例を記している²¹⁾。

脳血管疾患の後遺症、特にしびれや痛みに対して本方を使用した報告がいくつかみられる。佐々木らは桂枝加朮附湯を被核出血の後遺症に¹²⁾、後藤らは桂枝加朮附湯及び桂枝加朮附湯を視床痛の症例に用いて効果を得たと報告している²²⁾。

その他

赤澤は、糖尿病性神経障害による痛みやしびれを訴える50例に対し桂枝加朮附湯を投与したところ、著効34%、有効30%、改善30%、やや改善6%であったと報告している²³⁾。

また、城石らは八味地黄丸がしびれや冷感に対して70～80%の効果であるが、桂枝加朮附湯は冷感に対して62.5%、疼痛に対して50%の効果があることを報告している²⁴⁾。

関矢らは、クローン病、下痢を伴う直腸癌術後の吻合部からの出血、急性腸炎の下痢、チョコレート嚢胞による生理痛に、目眩と腹痛・腹満の5例において効果を得たと述べている。これらの症例では腹直筋の緊張がみられ、桂枝加朮附湯を桂枝加芍薬湯と真武湯または苓桂朮甘湯の合方と解釈して用いると応用が広がる可能性を示唆している²⁵⁾。

また渡辺らは、サルコイドーシスの患者5例において、四肢冷感や関節痛、しびれなどを目標に用いて、症状の改善と同時にACEやsIL-2受容体などの検査成績も改善したとしている²⁶⁾。

<引用文献>

- 1) 長谷川弥人・大塚恭男・山田光胤・菊谷豊彦編 漢方製剤活用の手引き p55-56 臨床情報センター 東京 1998.
- 2) 尾台榕堂 類聚方広義 11～12丁 1855.
- 3) 花輪壽彦 漢方診療のレッスン p400-401 金原出版 東京 1995.
- 4) 谷崎勝朗ほか 慢性関節リウマチに対するツムラ桂枝加朮附湯の臨床効果 臨床と研究 70: p2285-2292, 1993.
- 5) Imadaya et al. Therapeutic effect of Sino-Japanese (Kampoh) medicine on rheumatoid arthritis. 和漢医学雑誌 2(3): p439-445, 1985.
- 6) 古田一史ほか 桂枝加朮附湯、附子剤・煎じ薬・リウマチ科 27(5): p488-498, 2002.
- 7) 松多邦夫 桂枝加朮附湯 リウマチ科 27(4): p384-388, 2002.
- 8) 安田正之ほか 漢方製剤の追加併用による慢性関節リウマチの治療-桂枝加朮附湯および薏苡仁湯- リウマチ科 7(4): p322-330, 1992.
- 9) 高岸直人 腰痛・変形性膝関節症 老化と疾患 4(3): p389-395, 1991.
- 10) 大竹哲也 退行期骨粗鬆症と漢方 漢方と最新治療 10(4): p325-331, 2001.
- 11) 田北雅夫 桂枝加朮附湯とビタミンD製剤の併用効果 漢方と最新治療 12(4): p323-325, 2003.
- 12) 佐々木孝ほか 神経原性・筋原性疼痛に対する桂枝加朮附湯の効果についての検討 脳外と漢方 2: p9-13, 2007.
- 13) 大竹哲也 帯状疱疹・帯状疱疹後神経痛 日医雑誌 114(8): p457-460, 1995.
- 14) 菅谷壮男ほか 帯状疱疹後神経痛に対する桂枝加朮附湯の効果 ベイクリック 12(1): p70-

- 72, 1991.
- 15) 里村敬ほか 帯状疱疹後神経痛に対する神経ブロックと和漢薬の併用療法の試み 和漢医学雑誌 2(1): p146-147, 1985.
- 16) 白藤達雄 神経痛の漢方療法(帯状疱疹も含めて) 現代東洋医学 14(2): p197-201, 1993.
- 17) 堀江憲夫ほか 三叉神経痛に対する桂枝加朮附湯の効果 日大歯学 67: p896-901, 1993.
- 18) 神野成治ほか 顔面痛に対する桂枝加朮附湯の効果 日歯麻誌 20(2): p233-238, 1992.
- 19) 千葉雅俊ほか 頰骨骨折後に生じたCRPS type IIに桂枝加朮附湯が奏効した1症例 ベイクリック 27(2): p209-212, 2006.
- 20) 山口孝二郎ほか 下顎骨悪性線維性組織球腫再発に対するサイバーナイフ治療後の慢性神経痛に桂枝加朮附湯が有効であった1症例 痛みと漢方 21: p87-90, 2011.
- 21) 大塚敬節 脳出血による半身不随 漢方診療30年 p109-110 創元社 大阪 1959.
- 22) 後藤三ほか 視床痛に対する漢方治療の試み 日東医誌 61(2): p189-197, 2010.
- 23) 赤澤好温 糖尿病性神経障害(DIABETIC NEUROPATHY)に対する桂枝加朮附湯エキス散の効果 基礎と臨床 15(11): p5390-5394, 1981.
- 24) 城石平一ほか 糖尿病性神経障害に対する和漢薬治療の試み-桂枝加朮附湯、八味地黄丸、牛車腎気丸の使用経験- 和漢医学学会誌 2(1): p144-145, 1985.
- 25) 関矢信康ほか 桂枝加朮附湯の関節外症候への応用 日東医誌 60(4): p465-469, 2009.
- 26) 渡辺秀裕ほか サルコイドーシスへの桂枝加朮附湯による免疫調節効果の有効性がみられた症例治療学 40(4): p454-457, 2006.